

養 氣 軒

ようきけん



Nagasaki Kawatana
Medical Center

vol. 94
2023 Winter

『さわやかな笑顔と思いやりの心で、安心、安全な満足される医療をめざします』
そのために、患者さんは言うまでもなく全職員ひとり一人を大切にします。

●ようきけんとは「病む人の病のみならず心をも癒すことの出来るところ」という意味です。



Hospital Director Greetings

年頭のご挨拶

長崎川棚医療センター 病院長

藤岡 ひかる

Hikaru Fujioka

新年明けましておめでとうございます。

さて、全世界がコロナ禍に見舞われてから3年目になります。やっと出口が見えてきたようですが、まだまだ油断できません。長崎川棚医療センターでは、『発熱・風邪症状外来』を病棟および外来棟とは別に設け、診療を続けて3年目になります。また、病棟においてはいまだ面会制限しております。コロナ感染を否定させてもらうためにPCR検査を行い、検査結果が判明するまでは他疾患の患者さんとは離れて診療しています。玄関では検温も実施して、院内感染が発生しないよう万全の態勢をとっています。職員の皆さんも、外食や宴会、旅行等の自粛を長い間続けています。最近では、新型コロナウイルス感染の重症化は少なくなり、“With Corona”の時代になってはきましたが、医療施設である長崎川棚医療センターではまだまだ“With Corona”を実感できない職員の皆さんが多いことと思います。もう少し、頑張りましょう!!!

今年こそは、地域の皆さんにご不便をおかけする体制を一刻も早く解除できるよう祈っています。

長崎川棚医療センターの『2023年の目標・スローガン』は、今年もやはり『地域の皆さんに信頼される病院となるう!!!』です。地味で、当たり前のように、簡単なようで、しかし実は大変難しく地域医療を担う施設が到達するべき理想であります。

『さわやかな笑顔と思いやりの心で、安心、安全な満足される医療をめざします。そのために、患者さんは言うまでもなく、全職員ひとり一人を大切にします』という当院の理念のもと、“地域の皆さんに信頼される病院“となるべく、職員一丸となって頑張っていきたいと思います。

皆さんにとって、2023年が素晴らしい一年であることを祈り、ご挨拶といたします。

今年もどうぞよろしく願いいたします。☑

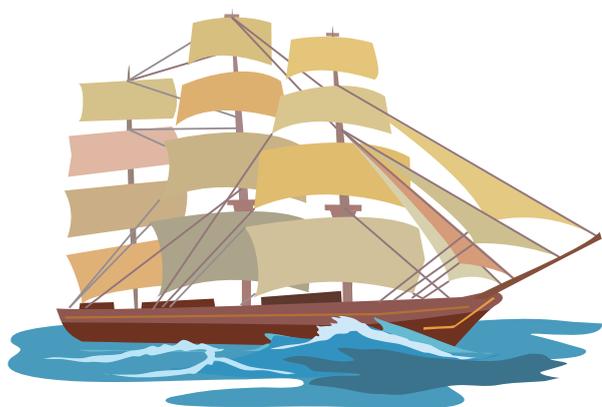
A HAPPY NEW YEAR 2023

寄贈の御礼とご報告

事務部長 三宅 修二

この度、東彼杵郡波佐見町の大石 猛様から長崎県知事賞を受賞した帆船模型を寄贈いただきました。大石様におかれましては、大変素晴らしい帆船模型を寄贈いただき本当にありがとうございました。

この重厚で迫力のある帆船を眺めていると、世界を航海している風景が思い浮かびワクワクする気分になります。素晴らしい帆船模型は、玄関ロビーに展示していますので、皆さんもワクワク気分には浸ってはいかがでしょうか。



「第76回国立病院総合医学会に参加して」

8病棟 植松 弥生

10月7日、8日に熊本市で開催された「第76回国立病院総合医学会」に参加しました。

「神経筋難病患者に関わる医療職の困難感とやりがい」というテーマで他病院の難病専門看護師・地域連携室・療育指導員と共に、発表とディスカッションを行いました。

私は、神経筋難病病棟に新人時から配属され今年で7年目となります。

日々の看護実践の中で、どんな些細なことでも患者さんの思いを傾聴し、要望にお応えすることを心がけています。今回の学会では、看護師として日々感じていることなどを報告し、神経筋難病病棟での看護実践に対する学びをさらに深めたいという思いで、シンポジウムに参加しました。

今回の学会で改めてわかったことは、看護師だけでなく難病専門看護師・地域連携室・療養指導員の皆さんも、私と同じように、「患者さんの要望・思いに応えられること、応えられないことがあり、応えられないこ

とにモヤモヤを感じながら日々働いている。」ということでした。そして、皆さんとディスカッションするうちに、「悩みながら、考えながらでもいい。患者さんのために頑張ろう」という気持ちをさらに強くしました。また、さらに専門的な知識を身につけたいと思いました。

今回学んだことを日々の患者さんの看護に活かし、やりがいを持って頑張りたいと思います。



謹賀新年

新年あけましておめでとうございます。
本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

令和五年元旦
長崎川棚医療センター



診療科紹介(整形外科)

整形外科医長 藤本 勝也

整形外科とは、人体の運動器官の疾患や外傷を取り扱う診療科です。

頭部・顔面と内臓以外の部分の骨、関節、靭帯、筋肉を治療いたします。その診療範囲は非常に広く、多岐にわたります。また、単に疾病や怪我を治すだけでなく、運動機能を回復させることを目的とした治療も行います。外来患者さんは1日平均12.5人、入院患者さんは1日平均15.5人です。

入院治療は骨折等の外傷性疾患が主です。

近年はクリティカルパスを導入し、患者さんに治療の経過がわかるように努めています。整形外科は、夜間・休日等の時間外での患者さんが多いのですが、時間外でも可能な限り対応しておりますので、必要な場合は遠慮なく電話でご連絡いただき受診されてください。



大腿骨頸部骨折の骨接合術後



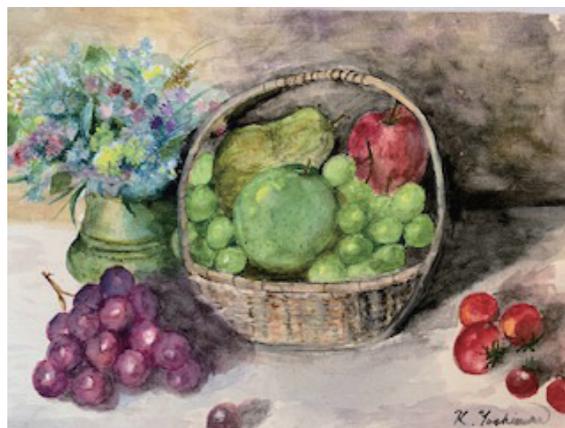
人工骨頭挿入術後

部署紹介(6階病棟)

6階病棟 看護師長 今里 純子

6階病棟は、脳神経内科・総合診療内科・感染症の患者さんが多く入院される混合病棟です。特に、パーキンソン病やALS(筋委縮性側索硬化症)、筋ジストロフィーなどの神経筋難病の患者さんが多く入院されています。

私たちは、疾患に立ち向かって頑張っておられる患者さんの「思い」を実現できるよう、医師・看護師・理学療法士など多職種で協働し、患者さんがその人らしく生活できるようお手伝いしています。



《入院中の患者さんが病室で描かれた水彩画です》

編集後記

副薬剤部長 小林 快至

新年あけましておめでとうございます。寒い日が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

新型コロナウイルスの感染はまだ続いており、第8波に入っております。感染防止対策(手洗いの徹底、マスクの着用、3密の回避、こまめな換気)を引き続き行っていきましょう。しかし、マスク着用は、冬場になるとメガネが曇って大変です。早くマスクのない皆様の顔が見える生活に戻りたいものです。

さて、本年は、大きなイベントとして病院機能評価の受審を予定しております。職員皆で協力し、より良い病院にしていきたいと思っています。

今年は卯年ですので、うさぎのようにぴょんぴょんと跳ねて、皆様にとって飛躍の年となることを祈念しております。

本年もどうぞ宜しくお願いいたします。